

Facilitator の心得 & 役割とスキル

< Facilitator の心得 >

I 客観的立場に自分を置く

内容や議論と一緒に入り込むと、主張したいことや納得してもらうことに必死になり冷静さを失い、まわりで起きていることが見えなくなります。

II 参加者・話し合いの当事者を主役にする

主体性をもって話し合ってもらうためには、参加者を主役にしなければなりません。

前に出すぎると、逆に「発言しにくい」「自由にできない」「気をつかう」などの感情を抱かせてしまいます。

効率はあまり重視せず、議論が深まるように心掛けましょう。

III 場の状態を把握する

参加者の状態＝表情や雰囲気から、不満げな人、発言したい人、場に参加できていない人などを把握する。

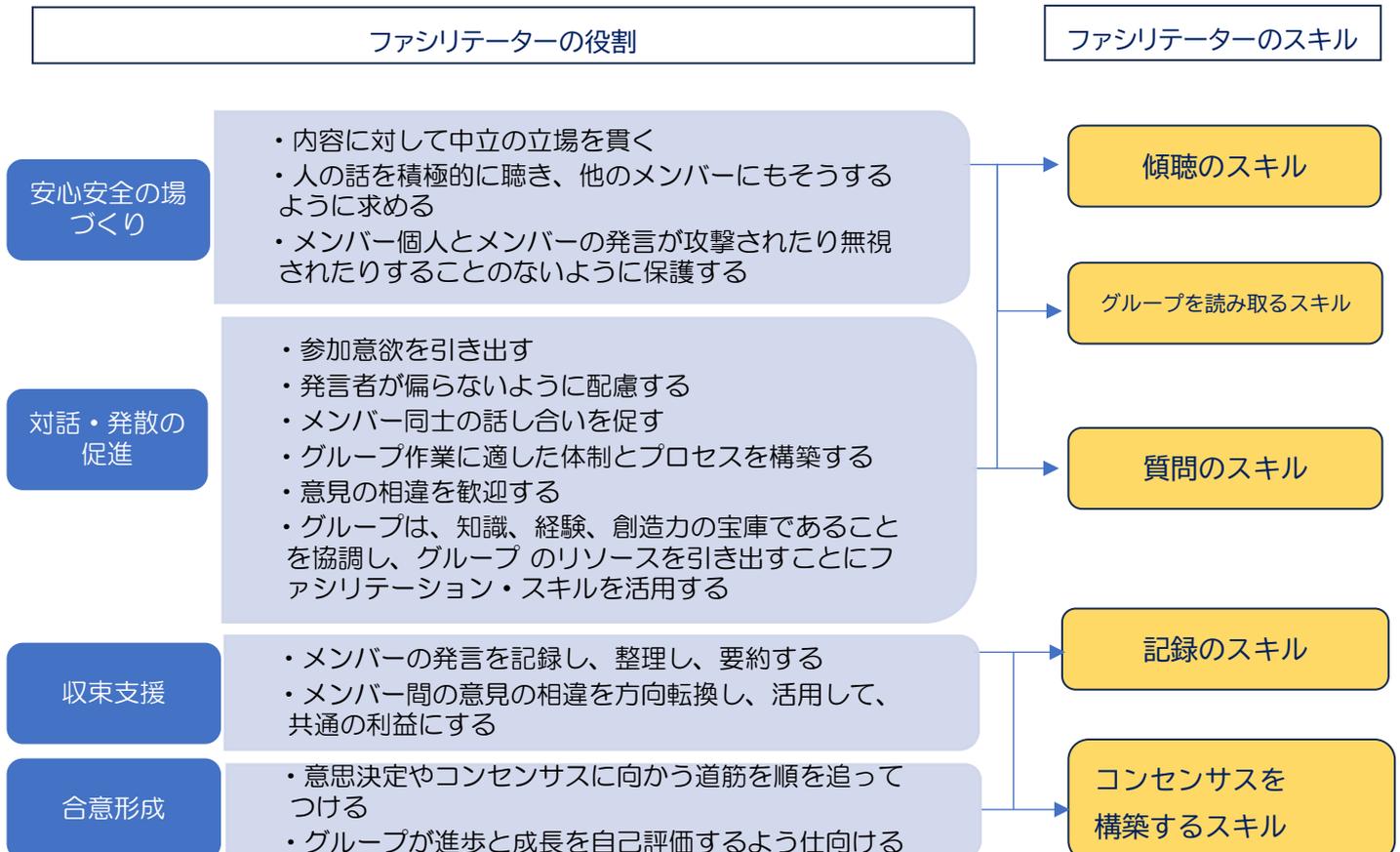
議論の状態＝話し合いの目的に向かって話しが進んでいるか、協道にそれていないかを把握する。

IV (場の状態に合わせて)必要と感じた場に介入する

話し合いが順調なら何もせず発言も控えましょう。

話し合いに停滞や混乱がある場合には、必要な言葉を投げかけましょう。

< Facilitator の役割とスキル >



2024 YOUTH FORUM 100 in かるぽーと

Facilitator の心得

I 16人のプレゼン原稿を徹底的に読み込んで、どの話題にも対応できるようにする。

一般的なファシリテーターと KOCHI IYEO が主催する YOUTH FORUM で求められるファシリテーターとは、何が違うのか？

一言で言えば、前者に求められるのは「**会議を円滑にするスキル**」で、後者に求められるのは「**+ 青少年の心の入り込む総合力**」です。

そうは言っても「…総合力」は、にわかにな身に力ではありません。

そこで、お願いしたいのがプレゼンター全員の原稿を徹底的に読み込んで、どの話題をふられても(世間話ではなく)一歩深い会話の展開ができるような徹底した事前準備です。

YOUTH FORUM のファシリテーターの仕事は、「**当日 10%**」、「**事前準備 90%**」です。

II 1時間の真剣勝負だという自覚をもつ

YOUTH FORUM では、ファシリテーターを入れて **4人 or 5人** 一組でグループディスカッションを行います。

お互いの自己紹介に何分もかける時間はありませんし、プレゼンター**16人**全員のプレゼントピックを扱う時間ありません。

そうすると自ずと答えは絞られてきて、「泣いて馬鹿を斬る」(**規律をまもるために私情を捨てる**)という結論に達します。

まず、**自己紹介を一人 30秒**で行います。

話すのは、①**氏名**、②**所属**、③**今日参加した理由**の3点だけです。(ここで雰囲気づくりをしようと時間をとって相打ちをうちあてはいけません)

最初に「**ファシリテーターが明るく、元気な声でモデルを示して、グループのテンポをつくる**」ことができるかがポイントです。

次に、(自分を含めた)参加者 **4人 or 5人**に

「今日のプレゼンで一番深堀したい(**共感した、感動した、ここで話したい、等々**)内容(**フレーズ等**)は何ですか？理由と一緒に発言してください。全員の意見を何回も聞きたいので**発言は 1人 1回 1分以内**をお願いします」

と言って、ここでも**ディスカッション内容と時間の「枠」**をはめてください。

III 本番は、臨機応変な対応でゴールを目指す

以上は、あくまでも基本モデルです。

実際は、グループ参加者の性格や個性、年齢や立場、当日の体調やパフォーマンス力合わせて、臨機応変な対応が求められます。

ここからは、「**場の状態を把握しながらゴールを目指す**」ことがどれだけできるのかがファシリテーターの技量になります。

このパーツでは、**1p**の一般的な「**ファシリテーターの心得**」を参考にしましょう。

IV ファシリテーターの最終ゴールを明確に知る

YOUTH FORUM では、ファシリテーターの最終ゴールを以下の **3点**としています。

1. 変化: 学びのあるグループワークでは、必ず参加者のポジティブな変化が見られ、その変化は参加者の目や顔の表情で感じ取れます。

「ファシリテーターは参加者のポジティブな変化を促すプロデューサー」だという自覚をもって臨みましょう。

2. 発表: 最後に、「誰か、今日の学びを発表したい人」というリフレクションタイムがあるので、ファシリテーターは、グループメンバーが「**勇気をもって、全員の前で堂々と発表できる**」ようなディスカッションワークをお願いします。

自分のグループから一人でも手が上がれば、それも一つの大きな成果です。

3. 模範: KOCHI IYEO の青少年育成活動では、「**誰かのメンターになる**」ことを最終ゴールとしています。

「**青少年から、あの人のようになりたい**」と慕われる「**人(自分)**」を目指して精進していきましょう。